

トラの骨や爪は漢方薬の原料になると

いわれています。

南アジア アンバー女神／インド H0148655

ヒンドゥー教の神がみはそれぞれが決まった動物を乗りものとし、トラやライオンを乗りものにするのは、剣や矛などさまざまな武器を使って魔神や病を打ち払ってくれる女神たちです。アンバー女神もその仲間、インドの西部や北部で広く信仰されています。

アンバー女神はいつもトラに乗った姿で登場します。

ほかの女神たちはどんな動物にのっているかな？



じつは、トラじゃない!?

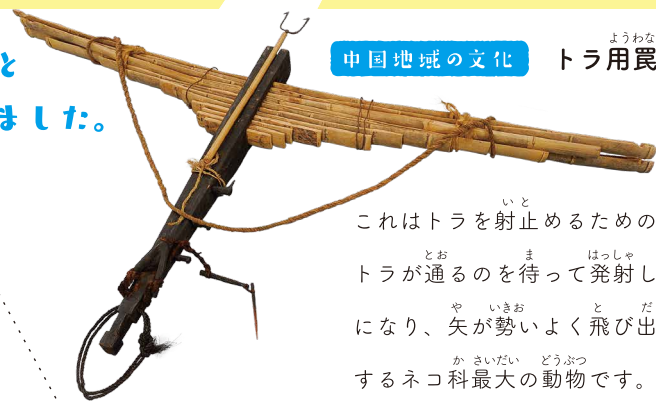
アメリカ 祭りの仮面(トラ)／メキシコ H0131713

トラがないメキシコにもトラの仮面があります。16世紀にメキシコにやってきたスペイン人たちがジャガーをトラと勘違いしたからです。メキシコではジャガーは神聖な動物と考えられ、ジャガー同士が戦うと雨が降ると信じている先住民の人びともいます。この仮面は雨乞いの祭りで、仮面をかぶった男たちが本気で殴り合います。

トラは怖いので、修行中に森でであった時のために、動物園に行ってあらかじめトラから「ぼく/わたしを食べたらおなかをこねすよ」ってトラ語でなんというのか、ちゃんと教えておく必要があります。



中国地域の文化 トラ用罾／湖南省 江華自治県 H0093896

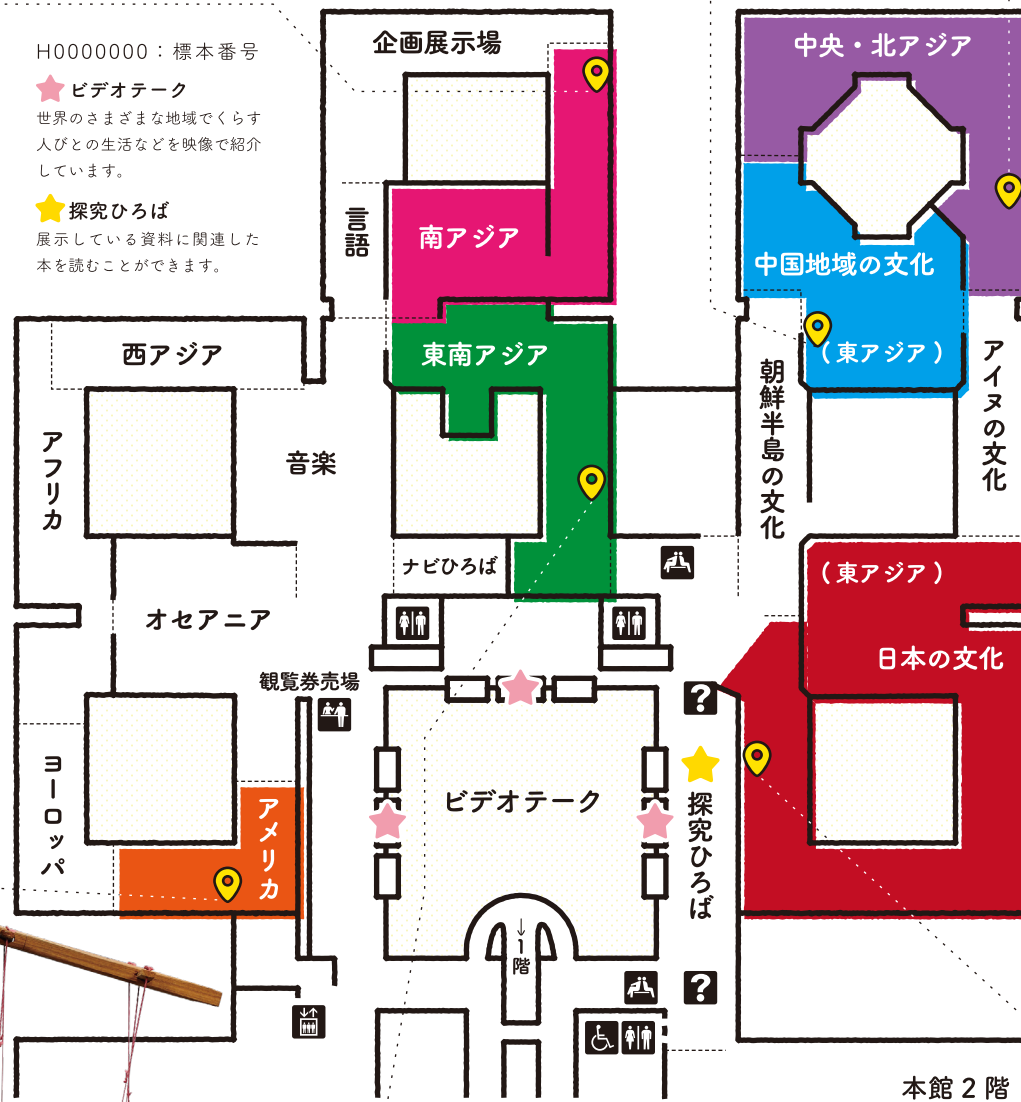


これはトラを射止めるための罾です。獣道の近くに仕掛け、トラが通るのを待って発射します。いくつも重ねた竹がバネになり、矢が勢いよく飛び出します。トラは、アジアに分布するネコ科最大の動物です。大きくて猛猛なトラを捕るためには、大型の仕掛けが必要でした。いまアジアで生き残っている野生のトラは絶滅寸前です。

H0000000：標本番号

★ビデオテーク
世界のさまざまな地域でくらす人びとの生活を映像で紹介しています。

★探究ひろば
展示している資料に関連した本を読むことができます。



東南アジア あやつり人形(トラ)／ミャンマー(ビルマ) H0144570

これは、ミャンマーの人形芝居ヨウテ・ブエーに用いられる人形です。首や手足が動くようにつくられており、各部分に結び付けられた糸を上からたくみにさばきながらあやつります。かつては夜を徹して、ブッダの前世の物語などを演じました。ミャンマーの森には、インドシナトラが生息していますが、絶滅が危惧されています。

中央・北アジア 精霊像(複製)／ロシア H0065643 他

アジアにはさまざまなトラがいることが知られています。アムールトラは体長からみたら最大級です。このトラは極東ロシアから朝鮮半島にかけて広く生息していましたが、密猟などの影響を受けて生息域は狭くなっています。アムール川流域で暮らす先住民ナーナイは、トラを畏敬すべき存在とみなしてきました。この置物は、トラの姿をした精霊です。ナーナイは、病気の時にこの精霊の像に供物を捧げて祈るといわれています。



おなじような形の仲間がたくさん展示されています。形や模様がすべてちがうよ。



沖縄の人びとにとって、干支はとっても重要!

日本の文化 虎人形／沖縄県 H0107764

これは、張り子のトラです。沖縄では、行事の日取りなど、さまざまな機会に干支が重視されますが、首里十二ヶ所巡りもそのひとつです。那覇市首里には、生まれ年の干支に応じたウチカミ(守り本尊)を祀る寺があり、人びとは健康や家内安全などを祈願して、自分や家族の干支の寺を参ります。ちなみに、寅年のウチカミは、首里山川町の慈眼院の虚空蔵菩薩です。

みんぱくトラの巻

みんぱくの展示場にはトラがたくさんいます。ガイドマップを頼りに、展示場の中でトラにまつわる展示物を探してみましよう。